

口腔機能低下症について

91号でお伝えしましたように令和8年度診療報酬改定において「口腔機能実地指導料(46点)」が新設され、口腔機能発達不全を認める患者、口腔機能の低下を認める患者に対する、歯科衛生士の専門的な指導が評価されるようになりました。ODHA お知らせ第91号の「口腔機能発達不全症」に続き、今回は「口腔機能低下症」についてご紹介いたします。

口腔機能低下症とは？

単に「歯を失って噛めない」という状態だけではなく、お口の周りの筋肉の衰え、唾液の減少、舌の運動能力の低下などが重なり、お口の総合的な機能が低下した状態をいいます。お口の機能の低下を放置すると、食事量が減って「低栄養」に陥ったり、飲み込む力が弱まることで「誤嚥性(ごえんせい)肺炎」のリスクが高まるなど、全身の健康状態に影響を及ぼします。口腔機能の低下は主に加齢により起こります。

右記の7つの検査を行い、3項目以上に該当すると口腔機能低下症と診断されます。

口腔機能低下症・診断項目

- 口腔衛生状態の不良
- 口腔乾燥
- 咬合力の低下
- 舌口唇運動機能の低下
- 低舌圧
- 咀嚼機能低下
- 嚥下機能低下

こうくういせいじょうたい
口腔衛生状態不良



口の中が汚れている

ぜつこうしん
舌口唇運動機能低下



食べこぼしをするようになった

ていぜつあつ
低舌圧



薬が飲み込みにくくなった

こうごうりょくていか
咬合力低下



食べ物口に残るようになった

こうくうかんそう
口腔乾燥



滑舌が悪くなった



口の中が乾く

そしゃくきのう
咀嚼機能低下



硬いものが食べにくくなった

えんげきのう
嚥下機能低下



食事の時にむせるようになった



気軽に
ご相談ください

生涯にわたり、自分の口でおいしく食事を続けられるように歯科衛生士は患者さまの歯、お口の機能、全身の健康を支援します。

口腔機能低下症の予防管理は、看護師、管理栄養士、介護スタッフなどと密に連携する必要があり、歯科衛生士が「現在の噛む力や、飲み込みのレベル」を正確に他職種に伝えることで適切な食形態の提案や、誤嚥のない安全な食事支援へと繋げることができます。歯科衛生士の専門的なアプローチはますます重要なものとなっています。

日本老年歯科医学会 引用

障がいがある方の口腔の健康を 大阪府歯科衛生士会がサポートします

大阪府歯科衛生士会では障がい児、障がい者の方々の口腔衛生を維持するための口腔衛生指導や歯みがき指導を行っています。お困りのこと・わからないことなどがありましたら、ご連絡ください。私共、歯科衛生士も一緒に考えていきたいと思ひます。
お問い合わせ・ご相談はお電話にて承ります。

毎日の口腔ケアが
笑顔につながるように



お口と体の雑学クイズ

歯や骨を丈夫にするカルシウム。では、カルシウムと一緒に摂取すると良い食べ物はどれでしょう。

- (1) きのこと
- (2) 小松菜
- (3) イチゴ



※答えは4面